

外来担当医表									
平成 29 年 4 月 1 日改正									
受付時間		診療科		月	火	水	木	金	土 日
午前	8:30-11:00	内科	1診	山本	長尾	新谷(貴)	吉田	新谷(貴)	休診
			2診	前野	柳田	國弘	柳田	沖本	
			3診(新患)	沖本	前野	吉田	長尾	國弘	
			4診	循環器専門外来 橋本	循環器専門外来 井上(一)	循環器専門外来 井上(一)	-	循環器専門外来 井上(一)	
			5診	血液内科専門外来 井上(暢)	糖尿病専門外来 新谷(眞)	-	-	糖尿病専門外来 新谷(眞)	
		外科 小児外科	1診	山岡(裕)	長谷	金廣	山岡(裕)	村尾	
			2診	金廣	津村	村尾	長谷	津村	
		小児科	1診	高本	藤井(裕)	松原	佐藤	高本	24時間急患診療
			2診	古森	野本	下藺	吉野	古江	
			3診	藤川	兵藤	-	-	-	
	(月)X(水)X(金) 8:30-11:00	ペイン クリニック	麻酔科	佐々木 平良	- -	佐々木 平良	- -	佐々木 平良	休診
	9:00-12:00	小児心療科	予約外来	黒崎 撰 吉原	黒崎 撰 吉原	黒崎 撰 吉原	黒崎 撰 吉原	黒崎 撰 吉原	
午後	12:30-15:00	内科	1診	吉田	沖本	長尾	山本	前野	休診
			2診	-	-	-	-	-	
			3診(新患)	國弘	新谷	沖本	前野	長尾	
		外科 小児外科	1診	市川	-	-	市川	-	
			2診	-	-	-	-	-	
	(月)X(水)X(木) 12:30-15:00	小児科	1診	吉野	下藺	佐藤	藤井(裕)	松原	24時間急患診療
	(火)X(金) 12:30-16:00		2診	山岡(尚)	古江	古森	野本	山岡(尚)	
			3診	兵藤	-	-	藤川	-	
	(月)X(水)X(金) 13:00-17:00	小児心療科	予約外来	黒崎 撰 吉原	-	黒崎 撰 吉原	-	黒崎 撰 吉原	休診
	水曜 12:30-16:00	小児皮膚科		-	-	田中	-	-	

	主な専門分野	担当医	診療科からのご案内
内科	呼吸器	柳田・沖本・前野・長尾	※内科医師は、内科専門分野と一般内科の診療を行っております。 ※当院内科は、予約患者さんが優先となっております。 ※胃カメラ、大腸検査、CT、MRI、エコー等の検査は予約制となっております。
	消化器	山本・國弘	
	循環器	井上(一)・橋本	
	血液	新谷(貴)・吉田・井上(暢)	
	糖尿病	新谷(眞)	
外科	一般外科・消化器外科	津村・金廣・長谷・村尾	※小児外科の診療は月曜日・木曜日に行っております。
	小児外科・新生児外科	山岡・市川	
小児科	神経・痙攣	兵藤・藤井(裕)	※ 当院小児科は、予約患者さんが優先となっております。 ※ 火曜日の乳児健診は予約なしで受けることができます。 母子手帳を必ずご持参ください。 ※ 水曜日の予防接種(ロタ、B型肝炎)は予約制となっております。 受付時間は12:30-15:00です。15:00までにお越しください。 その他の予防接種は、予約なしで受けることができます。 母子手帳を必ずご持参ください。
	循環器(心エコー)	高本	
	感染症	兵藤・松原・下藺	
	喘息・アレルギー	下藺・吉野	
	小児消化器	佐藤	
	腎臓	古江	
	一般小児	野本・古森・山岡(尚)・藤川	

小児皮膚科 毎週水曜 12:30～16:00 担当医:田中 ※難治性の小児アトピー疾患中心の外来

小児心療科 月曜～金曜 9:00～12:00 月曜・水曜・金曜 13:00～17:00 担当医:黒崎・撰・吉原

※小・中学生対象。不登校・神経症・PTSD 等に対する外来診療を行っております。予約制 TEL:082-232-6195

ペインクリニック 月曜・水曜・金曜 8:30～11:00 担当医:佐々木・平良 ※対象疾患は帯状疱疹・顔面麻痺・腰痛症・神経痛・頭痛・多汗症などです。



地方独立行政法人 広島市立病院機構

広島市立舟入市民病院

※ホームページ URL: <http://funairi-hospital.jp/>

〒730-0844 広島市中区舟入幸町 14 番 11 号

TEL:082-232-6195(代表) FAX:082-232-6156

編集・発行 医療支援室 TEL:082-232-6123

地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立舟入市民病院

医療支援室だより

第 2 号
2017.04

topics

- ・病院長ご挨拶 ・副院長ご挨拶 ・総看護師長ご挨拶 ・退任医師のお知らせ
- ・新任医師ご挨拶 ・4 月の行事食 ・診療科紹介
- ・短期入所サービス(レスパイト)事業について ・医療支援室紹介 ・外来担当医表



病院長ご挨拶



内科 柳田 実郎

平成 29 年度が始まりましたが、皆様にはご健勝でご活躍のこととおよこび申し上げます。また日頃より当院との地域連携に御協力いただき大変感謝いたしております。昨年度は当院にとりましても、診療報酬改定の影響などで大変厳しい年度でした。そんな状況下に当院は、平成 28 年度を「病院のあり方検討」と「病院機能評価受審」の年と位置付け、職員一丸となって精進してまいりました。外部委員を入れた「あり方検討委員会」を数回開き、年度末には「今後のあり方」を決定しましたが、「地域に根ざした病院として果たす機能」として示された項目を実現させることによって、地域連携をさらに充実させていければと考えております。また「病院機能評価」を、病院のインフラ充実のために 11 年ぶりに受審することとし、1 年がかりの準備の後、本年 3 月初旬に診査を受け、大きな問題を指摘されることもなく、無事終了いたしました。一方、4 年間空席となっておりました循環器内科の常勤医につきましても、本年 4 月より広島市民病院の井上一郎前救命救急センター長が、当院に副院長として赴任しており、先生方のご期待に添えるのではないかと思います。今後とも舟入市民病院を宜しく願いいたします。

副院長ご挨拶



内科 井上 一郎

平成 29 年 4 月に、広島市民病院救命救急センター長から舟入市民病院に副院長として赴任して参りました。専門は循環器内科で、30 年以上、循環器内科一筋で診療を行ってきました。柳田病院長によりますと、舟入市民病院の循環器内科の常勤医は 4 年間空席となっていたとのことです。その空隙を埋めるべく、内科や他科の先生方およびパラメディカルの方々とのチーム医療を構築して、地域医療に貢献していきたいと思っております。広島市民病院との連携のもとに、患者さんにとって最良で最適な治療を行うように努めてまいります。今後は、是非とも、舟入市民病院循環器内科をよろしく願い申し上げます。



外科 津村 裕昭

日頃より地域医療連携に御協力賜わり有難うございます。当院は全ての診療科において地域医療に携わっておられる先生方をご支援するサブアキュート機能、ならびに高度急性期病院からのポストアキュート・回復期機能を充実すべく体制を整えております。特徴的領域としては呼吸器・消化器・血液疾患における癌化学療法・症状緩和(KM-CART)・緩和治療、さらにヘルニアセンター、重症心身障害児(者)短期入所サービス等を益々充実させております。今後とも地域に根差した病院として先生方のお役に立てるよう努力してまいります。どうぞ「医療支援室」にお気軽にお声がけいただきますようお願い申し上げます。

総看護師長ご挨拶



澤村 睦美

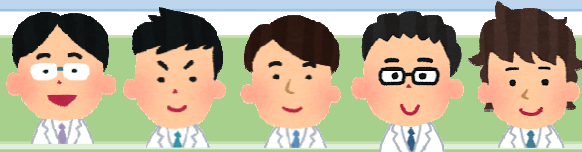
日頃より地域連携に御協力いただき心より感謝申し上げます。昨年4月、総看護師長に就任し舟入市民病院の地域での役割は何か、どのような看護を提供していけばよいのかを深く考えた日々でした。そのような中で行われた「地域連携の会」の開催や平成29年3月の「病院機能評価」受審は、病院システムの確認・見直しを行う大変良い機会となりました。昨年から開始しております「重症心身障害児者短期入所事業」など今後も地域の要望にお応えし、組織変革に貢献できる看護科として努力していきたいと考えております。今後とも舟入市民病院を宜しくお願いいたします。

退任医師のお知らせ

氏名	診療科	退職日
兵藤 純夫(※)	副院長 / 小児科	平成 29 年 3 月 31 日付
埜越 宏幸	外科	平成 29 年 3 月 31 日付
新津 宏明	外科	平成 29 年 3 月 31 日付
渡部 貴子	小児科	平成 29 年 3 月 31 日付
松原 千春	小児科	平成 29 年 3 月 31 日付

(※)4 月から週 2 日嘱託医として外来を担当します。

新任医師ご挨拶



外科 長谷 諭

4月から外科に赴任いたしました長谷 諭と申します。平成10年に広島大学を卒業後、廿日市の広島総合病院、呉の呉共済病院などで消化器外科とくに大腸外科を専門として外科手術や化学療法に携わってきました。今後は舟入市民病院の外科の看板であるヘルニア手術ならびに胃癌、大腸癌、胆石など幅広く手術を頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。



小児科 吉野 修司

平成 29 年 4 月より小児科へ着任いたしました。平成 15 年に香川大学を卒業し、小児科へ入局。同大学病院、香川・愛媛県内の病院で勤務、その後広島赤十字・原爆病院、JA広島総合病院にて診療を行ってまいりました。前任地ではアレルギー診療に関しても深く携わらせていただき、アレルギー専門医も取得させていただきました。広島の小児一次救急を守るべく、小児科一般を広く診療させていただくことはもちろんのこと、負荷試験などアレルギー診療に関しても微力ですが貢献させていただきたいと考えおります。どうぞよろしくお願いいたします。

短期入所サービス（レスパイト）事業について

平成 28 年6月から重症心身障害者短期入所サービス事業(以後、レスパイトという)を開始し、約 10 カ月が経過しました。

これまで、広島市にレスパイト施設がないため大竹市や呉市などといった遠方まで出かけるにはいけない状況が有り、35 名の契約がありました。その中で、レスパイトを利用して頂いているのは、約半数の 18 名ですが、2才～48 才まで幅広い世代で利用して頂いております。



平成 29 年2月からは4階病棟だけでなく5階病棟の病床が追加で運用が開始となり、利用者の色々なニーズに対応出来るようになってまいりました。(定数:2床)

スタッフは、看護師を中心に、医師、理学療法士、栄養士、薬剤師、保育士、事務部門といった病院全部門が協働し運営を行っております。その中でも、医療型の特徴として医療依存度の高い利用者が多く小児科医が毎日回診を行うなど何時でも対応できる体制を取っております。ご家族からは、医師が 24 時間配置されており、安心して利用出来るなどのご意見を頂いております。

また、アンケート調査では、環境面、看護技術面等についてご意見が有り課題も山積しておりますが、病院全体で協議しながら対応していきたいと考えております。

まだまだスタッフも不慣れなことが多々ありますが、ご利用者の方が安心、安全に利用して頂けるように職員全体で努力してまいりたいと考えております。

窓口である医療支援室では沢山の方にご利用いただけるよう連絡をお待ちしております。

医療支援室紹介

何時も医療支援室の運営にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

新年度がスタートし、新体制になりましたので、ご紹介を申し上げます。今年度から師長が広島市民病院から人事異動で着任しました。また、医療相談員を 1 名増員し2名体制になった他、人員配置などが充実しました。これまで以上に、迅速にタイミングを逃さない対応が可能になり、患者さんにとってより良い支援が出来るように取り組んでゆきたいと思います。昨年度は、当院にとって約10年ぶりの病院機能評価を受審しました。受審結果はまだですが、スタッフ一丸となって受審準備を行い団結力を得たことは副産物として喜んでおります。舟入市民病院の底力を見たところです。平成 30 年度の診療報酬の同時改定に向けて体制を見直し、これまで以上の対応が出来るように整備していきたいと考えています。



～スタッフ紹介～

室長 津村 裕昭(副院長)

看護師 光吉 康子(師長)

武田 芳枝

佐々野 みゆき

MSW井手岡 雅子

豊田 奈未

事務 上手 梨加

藪野 美恵

小児心療科

当科は平成 16 年 4 月、公立病院に設置された全国的にまれな小中学生の子どもを対象とした小児専門心療科として開設されました。最近では小児科や心療科などの医療機関のみならず、学校などの教育機関や福祉施設からも一定の評価をいただいています。現在常勤医師 3 名、保健師 2 名、心理療法士 1 名、クラーク 1 名が勤務しています。来院主訴は不登校や心身の不調が半数以上を占め、病態は対人恐怖、強迫性障害などの神経症、小児心身症や引きこもりです。また近年は虐待や剥奪などのトラウマの問題を抱えた子どもも増えています。

私たちは子どものころはその資質ととりまく環境との相互作用の中で育まれ成長していくと考え、一人一人を丁寧に診察し、子どもの持つ内的世界のありようを把握し、発達歴や養育環境、現在の家庭や学校の様子などを聴きながら治療的アプローチを考えます。

そのため各症例に十分な時間が割けるよう予約制を取り、カンファレンスを行い症例の見立てや治療の流れについてスタッフ全員で検討しています。

治療は患児に対して、おおむね小学生には描画や粘土などの遊びを介した遊戯療法、中学生には言葉を介した精神療法を行い、家族に対する親ガイダンスなどを併用しながら治療することを心がけています。また小学高学年～中学生の不登校の子どもに対するグループ療法、不登校の子どもを持つ親の家族教室も行っています。重症例についてはケースワーカーを交え、家族、学校関係者、児童相談所、施設職員の方々とともに連携会議を開いています。

今後とも医療関係者の方々や市民のみなさんの期待に応えるため、努力精進してまいります。どうかご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

(小児心療科一同)



麻酔科

当院麻酔科は、麻酔専門医・指導医、ペインクリニック専門医の資格を有する専任スタッフ 2 名が勤務する日本麻酔科学会の認定病院です。主な業務は「麻酔周術期医療」「痛みの治療」と「救急・集中医療」領域のサポートを行っています。

麻酔科の業務は一般には見えにくく麻酔科学の技術的な進歩などもあまり注目されることがありませんが、近年新しい麻酔関連薬剤やモニタリング機器などが登場し手術環境は大きく変化しています。また高齢化社会を反映し重篤な併存症を持つ患者さんも増加傾向にあり麻酔科医の責務はより大きなものとなっています。当科では安全な麻酔管理に必要な医療機器の整備を行いつつ最新の技術と知見の習得に心掛けています。当院の年間総手術件数 600～650 症例の 95%以上が麻酔科管理手術症例です。周術期の患

者さんの安全を最優先事項とし、術前診察で状態に応じた「麻酔計画と不安の除去」に努め、術中は「侵襲からどのように生体を守り、有害反応を制御するか」を、術後は「痛みの制御と合併症の予防」に重点をおいた管理を行っています。患者さんが術前と変わらない状態で速やかに社会生活へ復帰していただくことが地域連携病院の麻酔科としての役割と考えて診療を行っています。

疼痛外来(ペインクリニック)では主に帯状疱疹後神経痛や腰下肢痛などの慢性痛の治療を週3回(月・水・金曜日/午前)行っています。抗凝固薬服用などリスクを持つ患者さんの増加によりブロック療法は減少していますが安全面を考慮したエコーガイド下ブロックも導入していますので難治性の痛みに苦しんでいる患者さんがいらっしゃいましたらご紹介のほど宜しくお願いいたします。(なお、現在はマンパワー不足のため入院治療を休止しています)

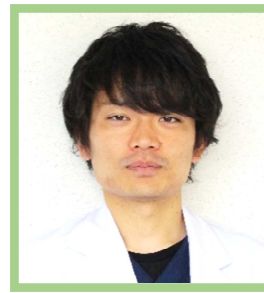
(麻酔科主任部長 佐々木宏)



小児科 古森遼太



小児科 藤川 皓基



小児科 山岡 尚平

皆さまはじめまして。小児科の古森遼太と申します。平成 26 年に広島大学を卒業し、JA 尾道総合病院で初期研修を行いました。平成 28 年 4 月から広島大学病院で後期研修をスタートし、平成 29 年 1 月から舟入市民病院でお世話になっております。私自身幼少期に舟入市民病院の夜間救急に何度もお世話になっており、その場で働くことができ非常に光栄です。小児科医として駆け出しで皆さまにご迷惑をお掛けすると思いますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

はじめまして。この度舟入市民病院に赴任致しました藤川皓基と申します。私は生まれも育ちも広島で、広大附属中高等学校を卒業し、広島大学に入学、平成 27 年に卒業しました。卒後は 2 年間呉医療センターで臨床研修を行い、広島大学小児科に入局致しました。高校生の頃に小児科の先生に憧れを抱き、この道に進むことを決めたということもあり、この度の赴任は身の引き締まる思いをしております。「何でも挑戦」をモットーに精進して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

はじめまして。4 月より舟入市民病院の小児科で勤務することになりました、山岡尚平といいます。以前は呉共済病院で 2 年間、初期研修を行っていました。今年の 2 月に赴任のお話をいただいたのですが、舟入市民病院といえば小児の夜間救急を行っている病院であり、重要な任務を仰せつかったと身の引き締まる思いでした。まだまだ若く、経験も十分ではないかもしれませんが、子どもさんやご家族に対して常に誠実に丁寧に診療をさせていただきたいと思っています。ふつつか者ではありますがよろしく願いいたします。

栄養室より ご案内

4 月の行事食～お花見弁当～

毎年、桜の季節になると、お花見弁当を提供しています。

入院中の患者さんに少しでも春を感じていただけるよう旬の食材を取り入れ、そして桜の塩漬けを添えた春らしいお弁当です。

多くの方に味わっていただけるよう、治療食の方にも提供しています。

おしながき
筍ごはん
鯛の塩焼き
春キャベツの
和え物
炊き合わせ
ポテトサラダ
季節の果物



内科

診療科紹介

舟入市民病院内科は常勤医として呼吸器内科4名、消化器内科2名、血液内科2名でそれぞれ構成されており、本年度からは新たに循環器専門医1名が加わるようになりました。糖尿病専門外来は従来通り週2回(火・金)午前中に広大からの派遣医師に診察をしていただいております。

今回は呼吸器内科・感染症科を簡単にご紹介いたします。

当科は、総合内科診療のほか、病院長を含め4名が呼吸器内科、感染症科の治療にあたっております。

設備として、肺機能検査、気管支鏡検査、FULL PSG、呼気 NO 測定などの検査のほか、呼吸理学療法士によるリハビリテーション、嚥下リハビリテーションなどを行っております。外来における閉塞性無呼吸症候群や慢性咳嗽の検査、呼吸器感染症(肺炎、誤嚥性肺炎、肺化膿症など)、慢性閉塞性肺疾患(肺気腫、慢性気管支援、気管支拡張症、びまん性汎細気管支炎など)、間質性肺疾患(間質性肺炎など)、アレルギー免疫疾患(気管支喘息、好酸球関連疾患、膠原病合併肺疾患など)、胸膜疾患(胸膜炎、気胸など)、末期肺癌の緩和ケアなどの外来・入院診療を行っております。



当科の特徴としては、患者様の急性期から在宅復帰までこまやかに対応できることです。当院で対応が困難な場合は速やかに専門施設へ紹介させていただきます。ぜひお気軽にご相談いただければと思います。

(呼吸器内科一同)

外科

日頃よりいつも貴重な患者さんをご紹介いただきまして、誠にありがとうございます。

現在、外科では鼠径ヘルニアを中心としたヘルニア関連疾患の治療、癌ターミナル患者さんの緩和治療、虫垂炎や胆石症など良性疾患の治療などを中心に行っております。鼠径ヘルニア手術については従来から鼠径部切開法を中心として積極的に治療を行ってまいりました。

近年手術のオプションの一つとして腹腔鏡下ヘルニア修復術(TAPP 法)も導入し、現在当院での鼠径ヘルニア症例の約1/3をTAPP法で行っており、約2年で200例の手術を経験しました。患者さんの多様なニーズにこたえられるよう、今後とも日々研鑽していきたいと考えております。また癌ターミナル患者さんの緩和治療では、特に難治性腹水症例に対して改良型腹水濾過濃縮再静注療法(KM-CART)を導入し、最後まで腹水貯留による腹満や苦しさを緩和しつつ、できるだけぎりぎりまで在宅での生活を送っていただけることを目指して取り組んでおります。

2週間毎に2泊3日程度の入院で腹水治療を行っております。医師だけでなく看護スタッフとともにCART臨床研修会にも参加して研鑽をつみながら、現在まで約360回の腹水治療を経験しました。また、虫垂炎や胆石症などの良性疾患の治療では、広島市民病院との連携のもとに早期の手術ができるように努めており、これからも広島市民病院の後期研修医の先生方とともに修練を積んでいきたいと考えております。その他にも局所進行乳癌症例での局所コントロール、結腸憩室炎や下腿蜂窩織炎など入院加療が必要な疾患についても幅広く行っていく所存です。今後とも引き続き舟入市民病院外科をよろしくお願い致します。

(外科主任部長 金廣哲也)



小児科

平素より皆様方には大変お世話になっております。ご存じの通り当院の小児科は広島県西部の小児救急医療拠点病院として、広島市だけでなくその周辺自治体に在住の方々も対象に休日・夜間救急診療(一次・二次)を行っております。365日24時間の診療体制を維持するため、医師会を始め、広島大学

及び市域の公的病院の小児科医の先生方には多大なご協力を賜りまことにありがとうございます。お陰様で、年間40,000人前後の救急患者及び1,500台以上の救急搬送の対応も何とか滞りなく維持できております。

近年の少子化傾向にもかかわらず、共働き世帯の増加等の社会的な影響のためか、休日・夜間診療の受診者数は変わらず推移しておりますが、最近はやや減少してきており、ベッドに余裕のある日が比較的多くなってきております。当科には神経を初め、腎、アレルギー、感染症の専門医もあり、その他の疾患についてもできる限り対応しております。さらに昨年度からは重症心身障害児(者)短期入所(レスパイト)事業を開始しております。困った症例などございましたらお気軽にお声かけいただければと思います。

また、昨年度をもって、当院で長く診療に携わっておりました兵藤純夫副院長が定年退職となり(今年度以降も外来診療は継続いたします)、5月からは、以前にも当科に在籍しておりました岡野里香医師が、5年ぶりに主任部長として復帰する予定です。他にも数名の入れ替わりがありますので、また新しい気持ちで診療に当たっていきたいと考えております。今後も引き続き、皆様方の変わらぬ、いやましてのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(小児科部長 松原啓太)



小児外科

日頃よりご配慮賜り誠に有難うございます。

当科では鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、乳児痔瘻などの外科的疾患を中心に診察させていただいております。そして、舟入市民病院の特徴でもある小児救急を受診される虫垂炎、メッケル憩室炎、精巣捻転などの急性疾患にも対応しています。しかし、残念ながら整形外科疾患・耳鼻科疾患・眼科疾患・脳外科疾患は専門科を設置していないため診療ができません。また、食道閉鎖症、直腸肛門奇形などの新生児期疾患の手術も対応しておりません。

当院の特徴は、手術が必要な小児の鼠径ヘルニア・臍ヘルニアは、市内他施設とは違い、予定手術は基本的には1泊2日と短期入院で手術を行っております。(遠方の方は2泊3日となります)

また、当院小児科受診は発熱疾患が多く、その中でVURなどの泌尿器科疾患があれば、小児科で保存療法を行い、改善なければ当科でCohen法による手術を行っています。出生数が少ないためか、近年鼠径ヘルニアは手術数が減少傾向にあり、全体の手術数も減少傾向にあります。

私が医師になった頃は手術していた疾患も、多くは保存的に治療することも多くなってきました。肥厚性幽門狭窄症は、以前であれば全例手術をしておりましたが、早期発見の際は硫酸アトロピン療法を行い、当院では9割以上の患児で手術不要となっています。

最近外来で増えてきた疾患は便秘症の患児です。下痢が毎日出ているので、便秘ではなく感染性腸炎と間違えられている遺糞症の患児や、肛門痛で我慢したために便秘になった患児など様々です。

経験不足で判らない疾患も多数あり、病名など即答できないことも多々ありますが、何かお困りの症例などございましたら、勉強しながら対応させていただきたいと思ひます。宜しくお願い申し上げます。

(小児外科主任部長 山岡裕明)